

日本学術会議  
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会  
海の学びカリキュラム小委員会(第25期・第1回)  
議事要旨

日時 令和3年7月6日(火)19:00～21:00

会場 ビデオ会議にて開催

出席 日置 光久(連携会員)、氷見山 幸夫(連携会員)、小川 博久、小澤 鷹弥、川真田 早苗、  
嵩倉 美帆、田中 隼人、辻 健、丹羽 淑博、由井 蘭 健、薦田有紀子(事務局)

#### 議題

##### 1) 役員の選出について

- ・事務局の進行により、出席委員数が定足数を満たしていることを確認の後、委員長に日置委員を選出した。以後の議事は日置委員長が議長を務めた。
- ・日置委員より、副委員長に丹羽委員、幹事に嵩倉委員を指名したい旨の提案があり、これを承認した。議事要旨(案)は幹事が作成することとした。

##### 2) 自己紹介

- ・それぞれの専門性と取組の報告を含めた自己紹介を、資料 6 の小委員会名簿の並び順に基づき、順次おこなった。
- ・小川委員:小・中学校校長職を経て、現職。中・高の理科の教員養成課程で教鞭をとる。毎週土日には、ビーチ・コーミング等に取り組む。
- ・小澤委員:小学校教員経験、社会教育施設職員を経て、現職。コロナ禍でも学びを深められるよう、オンラインワークショップ等を企画・実施している。
- ・川真田委員:小学校教員を経て、昨年より現職。理科教育(地球領域)・算数教育を専門とし、海岸の地層を活用した海洋教育に取り組む。
- ・嵩倉委員:現職における連携地域に足を運び、海洋教育の推進を、また社会教育施設と学校教育(生涯教育)との連携実践の研究・調査に取り組む。海洋教育を教科横断的にみる視点の重要性を問う。
- ・田中委員:高校教員、東大海洋教育センター等を経て現職。所属組織には特化して教育専門部署があるという特色があり、社会教育施設の教育普及(とくに科学的視点を踏まえた生物観察の方法等)に取り組む。専門はカイミジンコの分類・進化。
- ・辻委員:現職において、朝会で行ったカワウの PPT を使用し、カワウの生態(カワウ・ウミウの見分け方等)から水域生態系から森林生態系に至るまで考えられる実践事例を紹介した。日々児童たちと対話を深めている。

- ・丹羽委員: 専門は海洋物理。研究対象は内部波、津波。実験を利用した海洋教育カリキュラムの開発に取り組みつつ、小・中・高校へ赴き、様々な発達年齢に応じた出前授業も実施している。
- ・由井園委員: 韓国で小学校 6 年生対象に実施した授業実践(防災教育)の PPT を使用した実践事例を紹介した。専門である社会科の視点から海洋教育との接点を考えている。

### 3) FE について

- ・氷見山委員より、FE 発足の経緯や取組について説明があった。
- ・1992 年のリオ・サミットが起点となり、地球環境問題にどのように対応し得るかについて考えるために 2015 年に発足した。
- ・FE では教育に関する姿勢が定まっていなかった過去があるが、それを今後現場の教員である委員からの意見等もふまえ、この小委員会で考えていきたい。

### 4) 海洋教育について

- ・日置委員長より海洋教育の視点をさまざまな切り口で説明があった。
- ・サンゴ礁や厳島神社(広島県)、大漁旗、沖ノ鳥島の空撮写真、マイクロプラスチック、エルニーニョ現象、津波注意喚起の看板の素材写真を基に、海洋教育の視点の幅広さ、奥深さについて説明をおこなった。

### 5) 小委員会の活動について

- ・小委員会を 2-3 ヶ月毎に定期的開催する。
- ・前の期(第24期)では「Future Earth と学校教育: 海の学びと人材育成」と題した公開ワークショップを 2019 年 6 月 2 日に、「Future Earth と学校教育: 持続可能な社会と海洋の実現を目指して」という学術会議学術フォーラムを 2019 年 9 月 8 日に親分科会と連携して開催した。
- ・今年は 12 月に分科会でシンポジウムを開催予定。小委員会からも発表を行う。

### 6) その他

- ・次回の実施日時については、改めて、幹事の嵩倉委員よりメンバーに連絡される。